

看護職員の負担の軽減及び処遇の改善についての評価

和歌山生協病院
看護部

患者の高齢化に伴い、介護ニーズが高まっている。看護補助者の定着化や多職種との業務分担の課題や看護職員の負担軽減を図るために取り組んだ。

1. 看護補助者の採用・配置

急性期看護補助体制加算（25 対 1）および地域包括ケア病棟入院料の看護補助者配置加算を継続することが出来た。採用は常勤・非常勤含め 20 名できたが、退職者は 22 名であった。定着には課題が残った。ハローワークや人材業者を活用、ホームページやパンフレットの改訂、研修会への参加など多面的に人材確保に取り組んだ。また、法人内での連携やキャリアアップ支援、多様な勤務形態の導入、標準研修の実施など受け入れ態勢の整備を行った

【評価】

加算の維持および一定数の人数確保の達成はできたが、退職者も多く、定着には課題が残る結果となった。一方で、多様な勤務形態や教育体制の整備により、働きやすい環境づくりは進んでいる。

【課題】

継続就業につながる定着支援の強化が必要である。

2. 看護職員と多職種との連携および業務分担

多職種参加の会議を継続し、業務移行や業務量軽減について検討を行った

【評価】

多職種での情報共有や検討の場は確保されており、連携体制の強化にはつながっているが、具体的な業務移行や負担軽減の成果は限定的である

【課題】

具体的なタスクシフト・業務分担の実施と可視化が必要である

3. 看護師の採用・配置

夜勤回数の上限を超えない体制を維持し、勤務間隔や連続夜勤の制限などに配慮した勤務表を作成した。早出・遅出など柔軟な勤務体制を取り入れ、業務量や患者状況に応じた配置を行った。急な欠員時には院内リリーフで対応し、施設基準の維持に努めた。また、看護学生委員会を中心に奨学生確保や就職説明会への参加を行った。

【評価】

勤務体制の工夫により、過重労働の抑制や柔軟な人員配置が図られ、一定の負担軽減につながっている。施設基準も維持できている。

【課題】

急な欠員時の対応は継続的な負担となっており、安定した人員確保が必要である

4. 妊娠・子育て・介護中の看護職員への配慮

職員の意向を踏まえ、夜勤免除や配置転換を柔軟に実施している。育児休業や介護休暇の取得も進んでおり、院内保育所や夜間保育、病児保育の活用により支援体制を整えている

【評価】

ライフステージに応じた柔軟な働き方が可能となっており、就業継続支援や職場定着に寄与している。

【課題】

制度利用者の増加に伴い、多職種への負担の偏りに配慮した体制整備が必要である。

5、看護職員処遇改善加算への対応

看護職員処遇改善加算の対応を行った

【評価】

処遇改善により職員のモチベーション向上や人材確保への一定の効果が期待される

【課題】

処遇改善の効果を継続的に評価し、定着や満足度向上につなげていく必要がある。

既存の取り組みは概ね継続して実施できており、看護職員の業務負担軽減および働きやすい環境の維持には一定の効果が認められる。一方で、新たな業務改善やタスクシフトの推進、看護補助者の定着支援などについては十分とは言えず、今後の課題である。

各取り組みにより、看護職員の負担軽減および働きやすい環境整備は一定程度すすんでいる。

一方で、看護補助者の定着や人員不足への対応、多職種との具体的な業務分担の推進など、引き続き課題がのこされている。

今後も継続的な人材確保と体制整備を進め、さらなる負担軽減と処遇改善につなげていく必要がある